

心ひかれるもの

小さな子どもたちの日常の中で

中澤智子

(保育士)

私は、〇〜二歳の子どもたちが集う学内保育施設、いずみナーサリーで保育士をしています。ナーサリーではかねてから、小さな子どもたちの表現遊びについて、大学の先生方との研究会や協同アート活動を通して実践研究を重ねてきました。私たちが気付かず見過ごしていた一瞬の表現をとらえると同時に、カタチとして残らないプロセスを大事にするデザインの先生方の視点、日々の同僚との会話や研究会での対話などにより、いつも新しい気付きがあり、次はこうしてみようかと話し合いながら試行錯誤を繰り返していました。

その時の子どもの背景にあるものや本質に迫るようなやりとりがなされることもあります。が、色使いや、どんな素材を加えたらもっと面白くなるだろうかなど、表面的な話に留まることも多かったなと今になって思います。

そんな中、「ライフ&アート展」(お茶大関係者によるアート教育実践展覧会)に私たちも出展することになりました。ここで一度『日常』に立ち戻り、子どもたちが過ごす日常の中で何を見つけ、どんなことに面白さを感じ心ひかれているのか、子どもたちの過ごす日々を丁寧に見直してみようと思いました。

少しずつ少しずつ

パツと手を開くと

一瞬のうちに

手の中の砂は

なくなるけれど

ゆっくりと 慎重に

地面へと向かっていく

ひとすじの砂

砂の行方は

地面 ベンチ 葉っぱ…

葉の上に落ちる砂は

雨の音に似ていた

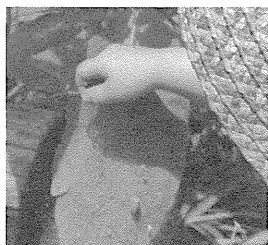
砂の重みに耐えられず

ザザッと

落ちてしまった

今度は落ちないように

手を近づけてやってみる



手で感じる 手が感じる

土の上に手を置くと

ほんのりとあたたかく

やわらかい

心のままに

手が動き出す

てのひらに 指先に

あるときは

力をこめ

あるときは

流れにまかせる

手が生み出す砂模様は

どんどん変わっていく

変わっていくから

おもしろい

今 この瞬間



こんなに小さな：

子どもの小さな手に
小さなからすのえんどう
中から
小さな豆がでてきた

春先には

ピンクの小花だったのが
緑の実になっているのを
豆好きの子が みつけた

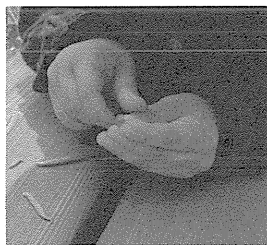
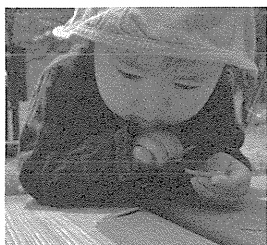
しばらくして

緑の実が

茶色くなったことに
気がつく子

時の流れを

小さな手が みつけた



名残雨で：

地面はすっかり乾いても
まだ残っている
雨を みつけた

暑い日差しの

下で みつけた

てのひらと

指先と

水で おえかき

とうとう 雨は

マンホールの

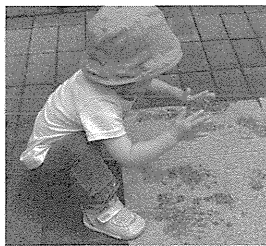
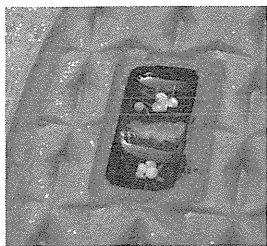
溝だけに

なってしまった

そこでは

豆（注釈…草の実を

ゆでていた



おもしろいと感じること

味噌汁に入れる玉葱の皮むきをした

むいた皮を小さくちぎり 並べていく

紙の上で 玉葱の皮アートが始まった

むくことが楽しい子

むいたものをさらに小さくする子

どこに置こうか並べようか思案する子

むいた玉葱を転がす子

転がる音 転がり方 転がる行方

おもしろいと感じることは

その時その子によって

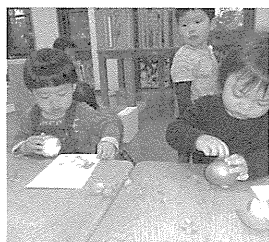
それぞれ

そして

友だちが

夢中になっている姿も

心惹かれること



子どもたちの周りには、「面白いこと」「きれいなこと」「不思議なこと」……と心動かされることであふれています。子どもたちの心に響いていても、私たち大人が気付いていないこともたくさんあることでしょう。また

その一方で、不用意に声を掛けてしまい、静かで大切な時間を壊してしまったり、日常を通り越して特別なことに気持ち先走ってしまふこともありました。

子どもたちのまなざしや表情、そして小さな手から垣間見られるライフ&アートの世界を写真と共に振り返る中で、

子どもたちの日常を大切にしたい

という当たり前のことですが、これがなかなか難しく、まだまだできていなかったな……と改めて思います。初心に戻り、地に足をつけて、子どもたちの過ごす日常を、大切に丁寧に、共に過ごしていきたいと思っています。